

傷んだ世界に仕える 弟子として

吉川直美

二〇二〇年は初めから終わりまで、COVID-19に振り回された一年でした。新しく迎えた二〇二一年も先行きが見えませんが、主人から留守をあずかった僕として、傷んだこの世界に仕えていくようにと、主に召され遣わされていることに変わりはありません。

しかし、COVID-19が長期化していく中で、澱のように溜まっていく閉塞感や疲労感をどう処理したらよいのか、持てあましていく方も多いと思います。教会でも、コミュニケーション不足のために、些細なことから人間関係がぎくしゃくしているかもしれません。まず、こうした自分自身に起こる予想外の感情や、身の回りで起こるトラブルも、この非常事態にあつてはごく自然な反応であるということを受けとめてほしいのです。

と言うのも、COVID-19によるパンデミックも災害であり、私たちはみな被災しているからです。一時期に甚大な被害をもたらす自然災害と違って、目には見えませんが、家族や職を失った人に比べればたいしたことではないと見過ごされが

ちですが、長期間に及ぶ緊張状態も、やっつと落ち着いてきたと思つたらまた感染拡大という繰り返しも、ボディイブローのように私たちの心身からエネルギーを奪い取っていきます。何気ない雑談や人格的な交わりに如何に支えられていたとか、自由に行き来し、新しい発見や刺激を受けることで想像力や感性がどれほど養われてきたことか——喪つてみて気づくことは少なくありません。COVID-19による人生への影響は一人として同じではありませんが、世界中の誰もが、何かを喪い、傷みを抱えたまま今の時を生きています。

災害支援のフェーズとして、被災直後に、一体感や意欲が高まる時期を指して「ハネムーン期」と呼びます。その時期には、一致団結して乗り越えようという高揚感と、頑張れば事態は好転するだろうという楽観的なムードも生まれます。

McCann Worldgroup Truth Central が昨年三・四月に行った「COVID-19パンデミックに関する各国・各世代の意識調査」では、三人に一人が「大切な人たちの距離が縮まった」「いつも以上に人と人が助け合うようになっていく」、一〇人に六人が「人生で本当に大切なものを考える機会になる」、一八%の人が「人々の信仰心が篤くなる」と考えている。と、パンデミックによって「(肯定的な意味で)世界は変わる」という期待値がありました。神学校も教会も、礼拝や授業を

維持することに心血を注ぎ、オンライン化や様々な対応に積極的に邁進してきた時期です。

ところが、長期化してくると、元には戻らない現実が直面し、ストレスやダメージが深刻化していきます。COVID-19で家族や友人を喪い看取することも葬儀もできない傷み、収入が途絶えて生きる場所をなくしてしまつた人、入学したばかりの大学を辞めざるを得ない学生、家族を直接喪うとまでは行かなくとも、長年親しんできた著名人のCOVID-19による急死や不可解な自死、また、遠方に住む家族と長期間対面できない寂しさ、あるいは老舗店舗の廃業、画面やマスク越しの会話やZoomによる疲れ、自粛警察のような監視の目、危機感の相違や難しい判断、医療逼迫の不安、命の選別、政治不信——心の安まる時がありません。

また、教会生活においては賛美ができない、聖餐式や愛餐会ができない、デジタル格差という固有の痛みがあります。キリストのからだである教会は、集まる、共に歌う、食事を共にするといった感染リスクの高いフィジカルな要素が満載であることに改めて気づかされます。そもそも、神さまは人間を創造された時、その鼻にいのちの息を吹き入れられていました。顔と顔がつくほどの至近距離です。この近さを思うと、人格的な交わりが必ず必要なものとして創られていることを思わずにはいられません。オンラインによる

恩恵に感謝しつつ、私たちは五感のすべてを用いて相対して生きる存在であることも再認識させられます。

感染症は私たちの健康やいのちを奪うだけではなく、共に集まることを妨げ、孤立させ、分断させるのです。

被災状況やストレス反応の違いが分断を引き起こし、不安や怒りが、もともと抱えていた傷による反応を引き出すこともあります。被災しているという認識もないので、相手や自分を責めます。昨年一〇月の警視庁発表では、女性の自死が八割も増加しています。経済的基盤の弱さに加え、とくにケアワーカーの負担が大きいです。つねに他者のケアをしているのに加えて、リモートワークや休校措置によって家庭での負担が増え、それまで何気なく行っていた自己ケア(職場での雑談や日常を離れる機会など)が激減しているのに、負担だけが増えてしまっているのです。

この傾向は、他者を気遣う誠実なクリスチャン、とくに献身者にも当てはまるのではないのでしょうか。このところ、以前のように気力が出ない、生き辛いという相談を受けることが多くなりました。是非、自身の喪失感や疲労を蔑ろにせず、

嘆きたいときには嘆き、潰れてしまいう前に助けを求めてください。

一方、そこで必要となるのは霊的なケアです。災害や喪失がもたらす本質的な課題は、おそらくこうなるであろうという未来の自己像や世界像が断絶し、生きる意味や他者との関係を見つめ直させられることにあるからです。ですから、そのために生じるスピリチュアルペインが手当てされ、変わってしまった現実を受け入れて新たなアイデンティティを再構築していくプロセスが必要です。そこで最も重要なことは寄り添う者の存在であり、絶望と喪失の物語が、主イエスの復活の物語によって再構築されていくことです。現実が「元に戻らない」としても、危機や喪失を通して再創造され、神と人と共に永遠に生きる「神のかたち」に回復する希望が与えられているということです。私たちには主人から託された管理人として、この世界を愛し、治めるといふ使命が与えられているのです。

エマオに向かう二人の弟子が、主イエスを十字架で喪い、弟子としてのアイデンティティも見失って、主イエスの復活を信じることもできずにいた時に、主イエスは彼らの絶望の物語に耳を傾けた上で、旧約聖書

からご自身について説き明かされて二人の霊の目を開かせました。私たちも人生の途上で何度も、自分の物語を紡ぎ直し、主イエスの弟子としてのアイデンティティに再構築されていくのです。

COVID-19による再構築は社会にも変革をもたらすでしょう。およそ一〇〇年に一度、世界はパンデミックに襲われ、その都度大きく変化してきました。COVID-19においては、都市への人口密集や、自然への無分別な介入、効率化の弊害、格差社会などの問題が一気に蓋を開けた一方で、オンライン社会化も加速するでしょうし、経済再生を、環境保全と連動させようという国際的な動き(グリーンリカバリー)も生じています。教会もまた然り。JEA神学委員が発行の小冊子にも記したことです。が、三世紀、「キユプリアヌスの疫病」に襲われたローマ帝国が、為す術もなく患者も遺体も遺棄していた中であって、クリスチャンは主イエスに倣って感染者を手厚く看護し、放置されていた遺体も丁寧に葬ることで感染に歯止めをかけました。彼らの態度の根底にある主イエスの愛、死生観、終末観(復活の希望と神の国の福音)がローマ市民の心を捕らえ、キリスト教の国教化につながり、

医療や福祉の原点ともなりました。

かたや、中世ヨーロッパをペストが舐め尽くした時には、これは神からの罰に違いないと、教会の形骸化を嘆き、己を鞭打って巡礼をする「鞭打ち行者」が現れて宗教改革への布石となりました。しかしその実、彼ら自身が感染を拡げ、ユダヤ人を犯人に仕立てて迫害するという痛ましい負の遺産を残しました。感染症は人々の霊の目を開き、信仰を再構築する光ともなれば、敵意という闇に呑み込まれる危険性もあるのです。二〇二一年に生きる私たちも、歴史の転換点に立っています。COVID-19のパンデミックは、教会から従来この礼拝の在り方を奪い、分断や孤立というふるいかけますが、共同体の在り方の本質を模索して、ますます共に礼拝する「キリストのからだ」に再構築されていきましょう。弱者が切り捨てられ、分断の加速する世界にあって、傷んでいる人々に仕えてまいりましょう。この一年の歩みが復活の光に照らされますようにと、お祈りいたします。

(よしかわなおみ 旧約通論・比較宗教・神学英语・世界と教会・キリスト教倫理・霊性の神学教師。単立シオンの群教会牧師)

聖契神学校オンラインセミナー「『神の王国』を求めて」のご報告

講師 山口希生

オンラインでの開催について

本年度の聖契神学校のセミナーは、初のオンラインでの開催となりました。コロナ問題が収束を見せない中で、実際に集まってくる講義が難しいという否定的な理由によるオンライン開催でしたが、結果として非常にプラス面の多い、実りあるセミナーになっています。まず、なんといつでも実際に集まる必要がなく、パソコン一つで全国どこからでも参加できるという利便性があります。これまででは関東圏の方しか受講できませんでした。今回は北海道や大阪の方が受講されていて、私もびっくりしました。また、受講者の方とのコミュニケーションもチャットを使えば気軽にできます。大きな教室で手を挙げるよりも、画面上の方が質問をしやすという方もおられると思います。

同時に、オンラインでの授業は、

教室での講義における「間合い」や「遊び」のようなものがなく、講義する側が入念に準備をしないと、どうにも間延びした講義になりかねません。準備不足が受講者にすぐに分かってしまう、講義する側としてはある意味で怖い形式の講義だと言えます。そこで普段以上にパワー・ポイントなど講義用の資料を充実させているので、その結果受講生の皆さんにお配りする資料もしっかりしたものになっているのではないかと、という手ごたえを持っています。ですから、用事で何度か講義を欠席した場合でも、資料と講義の録音を活用していただければ十分に追いついていきますし、また復習のためにもこれらは役立つものと信じています。以上、オンラインでの開催についてのご報告でした。

同じタイトルの本との違い

今回のセミナーは一〇月三十一日のオープンキャンパスの特別講義を皮切りにした七回の連続講義からなっています。ちょうど同時期に、拙著「『神の王国』を求めて」という同じタイトルの本が出版されましたが、この本の内容とこの連続講義の内容とは別物と考えていただいたほうがよいです。この二つはお互いに補完

的なものなので、この講義を受けたうえで本書を読んでくだされば、一層理解が深まるでしょう。本の内容は研究史ですので、近代以降の欧米中心の新約聖書学界で「神の王国」というテーマがどのように議論され、理解が深まってきたのか、その流れに着目しながら解説しています。それに對し、この聖契神学校の講義では聖書そのものから「神の王国」を探求する、というアプローチを取っています。もちろん講義をする私自身が、欧米での「神の王国」研究から非常に多くのものを学んでいるので、研究史の本の内容と私の講義には重なる部分もたくさんありますが、研究史の本では触れることのできなかった聖書テキストの詳しい解説を講義には盛り込んでいます。他方で、私の講義の裏付けとなる研究の歴史については、本書を読むことでよく理解できるでしょう。ですから、特にこのセミナーを受講された方は、ぜひ本書もじっくりとお読みください！ さて、前置きが長くなりましたが、以下では講義の内容そのものをご紹介します。

「神の王国」とは何か

イエスが宣教を開始したときの第一声は、「時が満ち、神の王国が近

づいた」でした。私たちはこの言葉を当たり前のように読んできたかもしれませんが、よく考えるとその意味するところはなかなか捉えがたいのではないのでしょうか。まず、王国到来の時期の問題です。イエスが「神の王国が近づいた」と宣言したのはもう二千年も前のことですから、「神の王国」はとづくにきているはずですが、イエスが「時が満ちた」と言っていることから、それは間違いないでしょう。けれども、イエスが宣教していた時に、本当に「神の王国」は来ていたのでしょうか。神の王国が、飢えも病も老いも死もない世界、苦しみや悲しみのない世界、あなたの願うことが何でも叶うようなユートピアを指すとするならば、イエスが活躍した時代も、そのあとの百年間も、あるいはそれから現在に至るまでの二千年の間にも、そのような世界はいまだ実現していないと、ほとんどの人が考えるのではないのでしょうか。もし「神の王国」を



VEGEL Inc.



山口希生師

地上の楽園として理解するならば、イエスの「近づいた」という宣言にもかかわらず、それはまだ来ていないと結論付けるしかないでしょう。しかし、イエスは「この地上世界は、もうすぐ楽園に生まれ変わる」と言おうとしていたのではないし、ましてや「あなたがたが『天国』と呼ばれる別の世界、夢の楽園に行ける日が近い」と言おうとしたのでもありません。「神の王国」とはここではないどころか、という意味ではありません。むしろ神ご自身が、この不正と暴力と憎しみと虚無とで一杯になつていような世界、間違つても「楽園」とは言えないような世界のただ中に飛び込んできて、そこで新しい支配を開始する、このように宣言したのです。ですから、「時が満ち、神の王国（神の支配）が近づいた」という宣言の意味とは、「神があなたがたのただ中で、この地上で王として支配される時はもうすぐだ」

ということでした。しかし、ある人が「私は王だ。私がこれから支配する」と叫んでも、だれもその人に従おうとしないならば、その人はただの裸の王様でしょう。同様に、イスラエルの神がご自身で、あるいは神が選んだ誰かを通じて、この世界で支配を開始しようとしても、だれもその声に聴き従おうとしなければ、「神の支配」が実現したとは言えないのです。ですから、自らの活動を通じて神の支配をこの地上において開始しようとしたイエスは大きなチャレンジに直面していたはずですよ。どうすれば人々が神の支配を受け入れて、そのために働くようになるのだろうか、と。イエスが人々の注目を集め、彼らを従わせるためには、人々の願いを叶えてやるのが早道だったかもしれません。王は、人々の願いを叶えてくれるからこそ民衆に支持されるからです。では、イエスの時代の人々は、王に、そして神に何を求めていたのでしょうか。人々の願いは昔も今も、そんなに変わらないのかもしれない。食べるものに困らず、戦争や争いなどの厄介な問題に巻き込まれず、普通に暮らしていければそれでいい。しかし、イエスの時代の民衆にとつて、こうした平凡な願いでさえも手の届

かないところにあるかのようでした。繰り返される不作や飢饉、その苦難の上にのしかかる重い税金、さらには戦争や戦乱による暴力、こうした敵しい現実には多くの人々は打ちのめされ、あるいは不満を募らせていました。イエスが彼らの注目を集め、自らが説く神の支配に人々を従わせるために、何をすべきだったのでしょうか。まずは彼らにパンを与えることなのかもしれません。「人はパンだけで生きるのではない」ということが真理だとしても、「衣食足りて礼節を知る」とも言うように、人はまずパンを求めるのではないでしょう。あるいは、人々を引き付けるために圧倒的な力を示すべきなのかもしれません。人々を苦しめる無敵のローマの軍隊ですら打ち破るような奇跡的な力を見れば、人々は歓喜の叫びをあげて、つき従うのではないのでしょうか。けれども、こうしたやり方には、この世のやり方とどこか違う点があるのでしょうか。ほしい人に好きなだけパンを与えることと、選挙民にすべて一〇万円を与えて政治的な実績を上げることとは何が違うのでしょうか。暴力によって暴力に打ち勝つても、さらなる暴力を生み出すだけなのではないでしょうか。神の支配とは、この世の支

配と大した違いはないもので、単にそのスケールが桁違いなだけなのではないでしょうか。いいえ、そうではありません。イスラエルの神は、単に圧倒的な力を持つ存在ではないのです。神の支配とは、人々に驚きと、そして大いなるチャレンジを与えるものです。それは人間の欲望や願望を具現化するためのものではなく、神のヴィジョンを実現するためにこそあるのです。神の支配は、悪意に対して悪意をもって応報するのではなく、善意によって悪意を乗り越え、敵を

「神の王国を求めて」

聖契神学校オンラインセミナー
講師 山口 希生

第二回

神の王国の探求：共観福音書

豊富なパワーポイントによるわかりやすい講義

さえ愛し、隔ての壁を打ち破ることによって実現します。イエスはその苦難に満ちた公生涯を通じて、「神の支配」とはどんなものであるのかを人々に示そうとしたのです。

十字架の福音

このイエスの「神の王国の福音」はその弟子たちによって受け継がれ、地中海世界に急速に広がっていきました。しかしその宣教は力強さと豊かさによってもたらされたのではなく、弱さで貧しさの中で遂行されていきました。そのような伝道の在り方を体現したのは、「十字架につけられた王、イエス・キリストの福音」を宣べ伝えた使徒パウロでした。彼の働きはユダヤ人の垣根を打ち壊して異邦人世界まで広がっていききましたが、パウロは自らの働きについてこう語っています。「私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです」(Ⅱコリント四・一〇)。パウロが強調したのは、イエスと共に十字架につけられ、イエスと共に死んでいくことでした。パウロはその苦難に満ちた伝道の生涯を通じて、異邦人の人々にイスラエルの神の支配の本質を示そうとし

たのでした。それは暴力や強制、あるいは言葉巧みな説得によるものではなく、敵意にすら愛をもって応答するイエスの、そして神の姿を示すことによってもてました。

パウロだけではありません。初期のキリスト教宣教師たちは、みなそれぞれ十字架を背負い、イエスに倣い、神の王国を広げていったのです。その姿を象徴的かつ感動的に描いているのがヨハネ黙示録一三章にある「二人の証人」のたとえです。今回の一連の講義のクライマックスは、第七回の「神の王国とヨハネ黙示録」ですが、その際にこのテーマについて詳しく解説します。講義を受けられない方も、拙著『神の王国』を求めての一九章にそのエッセンスがまとめられているので、お読みくださいれば幸いです。

まだまだオンライン授業が続きます

校長 関野祐二

クリスマス礼拝を終えた夕刻、西の低空で大接近する木星と土星を、久しぶりに寮生方と屋上で観望しました。この地上がどれほど揺れ動いても、寸分狂いなく接近した二大惑星の可愛らしい姿を望遠鏡の視野に捉え、マスクでレンズが曇るのを気にしつつ感動を分かち合いました。

減多に経験しない、経験したくない不安と混乱の中、年末を迎えました。このニュースが皆さんのお手元に届く頃、新型コロナウイルスの国内外の感染状況がどう推移しているのか、全く予想がつきません。医療や雇用、経済など社会状況の危機や不安はもろろのこと、諸教会はコロナ対応に追われる日々でした。本校も、こうした先の見えない状況に翻弄されつつオンラインのみの授業を続け、どうにか後期冬休み入りに漕ぎ着けました。日頃より聖契神学校のためお祈りとご支援をいただき心より感謝いたします。

九月下旬、本校が加盟する日本福

音主義神学校協議会が先に行った、加盟校のコロナ禍における授業のアンケート結果を知らされ、全寮制の神学校が多いことも相まって対面授業を徐々に再開している現実に、焦りを覚える数ヶ月を過ごしました。

一月には、オンライン授業に関する第二回アンケートを在校生と教職員に実施し、オンライン授業の内容にはおおむね好意的な回答でしたが、長期化による疲れや交わり不足の訴えは、如何ともし難い現実であると再認識させられました。現状を受け入れつつ励ましと提案の両面で現場の声をたくさん寄せてくださった在校生の皆さんと、孤軍奮闘で今なおオンライン授業に磨きをかけてくださっている教師の面々には感謝の思ひしかありません。

教師会で話し合いを重ねつつ少しずつ全面オンライン授業を延長しながら、一月の時点で二〇二二年三月の後期終了までオンラインを続けることを決め、アンケート結果を踏まえ一二月の理事会で、来年度前期もオンラインで行うことを決断しました。外部からの入学問い合わせ、来年度の事業計画と予算策定からもタイムリミットだったわけですが、東京都の感染急拡大が続く現状にあつては楽観的見通しを立てようもな



学生会主催 クリスマス会

く、あらためて、本校が有する「都心にあつて建物が狭い通学主体の神学校」という特性と向き合い、現実的対応をすることになった次第です。教師会や理事会、事務スタッフの共通認識は、本校においてハイブリッド（対面とオンラインの併用）授業は現時点ではメリットが少ないこと、いったんハイブリッドや対面授業を始めた後、感染状況の悪化で再び全面オンラインに戻すようなことは避けたいとの方向性です。クラスを超えた時間の共有と交わりの不足を補うため、年明けからチャペルタイム

をオンラインで行うことを決め、来年度前期は何回か登校日を設けることも考えていますが、これも本人やご家族の状況で感染リスクを避けたい学生には、欠席にならないよう配慮するつもりです。コロナ終息の暁には、チャペルと食堂に皆で集まり、御国完成の前祝いをする、卒業式レセプションさながらのすごい盛り上がりが見えるようで、その日を待ち望みつつ今を忍耐したいです。

一〇月三十一日（土）、オンラインオープンキャンパスを実施しました。例年通りなら少しの打ち合わせで準備可能なのですが、初のオンライン方式ですから、案内チラシや参加申し込み方法など、すべてゼロから考えなければなりません。事務スタッフ五名により検討を重ね、特別講演会講師の山口師も含めたオンラインリハーサルを経て、キャンパスに誰も来ないオープンキャンパス当日を迎えました。看板も傘立てもスリッパも不要ですが、五箇所からZoomで参加する事務スタッフには、例年とは違う緊張感がありました。公開授業は技術的問題もありスバリ諦めて、午前から学校説明を行いました。半年間オンライン授業で培ってきた経験の蓄積があり、学生会のパワポによる学校紹介も手慣れた

もので、思いの外スムーズでした。心配した懇談会も、オンライン参加者からの活発な質問にスタッフのみならず応援参加の在校生も対応し、あつという間に一時間が過ぎました。案ずるより産むが易し、やってみるものだな、と思います。

午後の特別講演会をセミナーの無料第一回とし、二回目から有料として、初のオンラインセミナーを行いました。講師の山口希生先生がTCUの授業でZoomに慣れていること、大量のパワポ資料を画面共有して丁寧に講義をしてくださったことで、むしろ対面よりも集中して学べたとの感想もお聞きしました。初回は七〇名以上、二回目以降も五〇名前後の参加者が与えられました。遠隔地からの参加もオンラインならではの、もしかするとこれからのセミナーはオンラインが標準となるかもしれません。「『神の王国』を求めて」と題するセミナーの内容は、別記の要約でおわかりのように目からウロコの連続で、主催者が申し上げるのも妙ですが、お金を払ってでも聴く価値が十分ありますから、ぜひ別途お申し込みください。

最近の大きな出来事と言えば、長年教師を務めて来られた基礎科「中

間時代」、専門科「牧会カウンセリング」担当の井上誠先生が、今年度末で退職されることになったニュースです。次号に井上先生のごあいさつを掲載する予定ですから詳細はそちらに譲りますが、先生ご自身が大きな一歩を踏み出すための決断です。寂しくもその思いを受け止め、急速後任の選定をした結果、今回のオンラインセミナーを担当された山口希生先生が「中間時代」を、イムマヌエル聖宣神学院学監の河村從彦先生が「牧会カウンセリング」を引き受けてくださるようになりました。お二人の先生についても改めてご紹介しますが、後任人事がスムーズに決まり、心からの感謝とともに、胸をなで下ろしております。

もう一つのニュースは、聖契神学校がカンパウンド長老キリスト教会の教派認定・指定神学校に決まったことです。同教会所属の高座教会担任牧師である松本雅弘先生が本校で教鞭を執っていることもあり、以前より毎年のように本校在校生が実習神学生として高座教会へ遣わされ、良い関係を築いて来ましたが、本校が認定校でないことがネックでした。この決定により、高座教会はじめカンパウンド長老教会に属する諸教会より、多くの献身者が本校に送ら

れ、ともに学ぶ機会が与えられることを期待しております。この決定に至るまで、松本先生はじめカンバーランド長老教会関係者の方々にはひとかたならぬご尽力をいただきまし。この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

昨年三月の卒業式は新型コロナウイルス感染拡大初期で、来校者を卒業生プラス二名に制限して実施、四月の入学式は緊急事態宣言発令直前に、やむなく中止しました。今年は今だ感染拡大のさなかにありますが、感染予防対策を徹底した上で、別記案内の通り、来校者をさらに制限し、オンラインでもライブ中継をしながら、卒業式入学式ともにチャペルにて小規模により挙行する予定です。その時の感染状況で、両式の持ち方を変更する可能性もありますが、ご了承ください。

学生募集のためにも、お祈りください。例年でしたら、授業見学や学校見学者を随時受け入れて、個別に面談をするのですが、今年「ぜひ来校してください」と案内することにも憚られるため、それも叶いません。ただ、単発では何名かの方が訪れてくださっています。また、来年度前期もオンラインが続くことを、かえってメリットと受け止めていただけ

る可能性もあります。入学試験については、筆記試験を例年通り神学校で行うことは変わりませんが、面接は翌日の午後に、Zoomオンラインで行うことを決めました。筆記試験後すぐに採点をし、夜九時頃まで受験者も試験官も疲労困憊の中行つて来た面接は大きく形態を変え、余裕を持って採点をし、筆記試験翌日に待ち時間のない形で行います。冬休み明けは、在校生にとつて後期残り二ヶ月半の学びの仕上げ、卒業生にはラストスパートと卒業後の準備期間となります。例年休み明けに行つて来た個人面談は、Zoomで行います。教師の入れ替えもあつて、来年度のカリキュラムが変更となり、在校生には前期履修科目選定に影響することでしょう。感染状況がどうなるかわからない中で、感染リスクを常に意識するストレス、オンライン授業の疲れなども継続しています。どうぞ聖契神学校が、諸教会に任せ、献身者教育と訓練の機関としての使命を果たし続けることができるよう、さらなるご支援とお祈りをよろしくお願いいたします。

神学校の教室から

●神の導きと支えを確信

聴講生

蒔田 守

二年目の聴講生として最後の学期を迎え、現在は神学概論と中間時代を履修している。聴講生といつても聖契神学校では本科生と同じ課題が課せられ、評価もされる。家族は「聴講生なのだから、もつと気楽にやればいい」と言うが、退職後に入学したので、人一倍集中しないと授業についていけない。授業後すぐに復習すると、次の授業までには復習内容を忘れるという問題にも悩まされている。

関野祐二校長の神学概論では、キリスト教神学の入門コースとして、教理を基礎から学んでいる。理解を深め定着を図るために、毎週学んだトピックで信徒教育用テキストを作る課題が出される。教理を理解して自分のことばで語る難しさを痛感している。現在は学期末の選択レポートテーマ決定に苦労しているが、同時にワクワクしている。

井上誠先生の中間時代では、旧約時代と新約時代をつなぐ中間時代の

歴史的文化的背景を学ぶことで、突然新約聖書の時代が始まったのではないことがわかる。周辺諸国に飲み込まれ翻弄されるユダヤの民と神の導きが、イエス・キリスト物語の扉を押し開く様子がよくわかる。毎時間のユダヤ人ジョークも癖になるほど面白い深い。

この二年間で八科目履修したが、神さまが人生を振り返らせ、神さまの導きと支えを私に確信させてくださることが何より嬉しい。だからいつも主の教えを口ずさんでいたい。聴講を終え、この経験をどう生かすが当面の課題だ。

●偉大な神様を知る期待

基礎科

川口 真

基礎科二年目の川口真と申します。現在は日中働きながら夜間に「新約釈義」と「神学概論」を履修しています。毎週の授業でやる課題に取り組み大変さはありますが、その分神様に思いを巡らせられることは喜びです。入学前「聖書の読み方がガラッと変わるよ」と在学生から言われ、果たしてそんなに変わるのだろうか

疑いながら学び始めましたが、一年目からガラツと変わりました。特に「旧／新約緒論」の授業では聖書が神の言葉であるとはどういう意味なのかを様々な角度から考えさせられ履修中は今まで何を信じてきたのだろうと不信仰に陥りましたが、履修後には自分が信じてきたよりも、もっと偉大な神様を知り、信仰がより確かに、また健全になっていくと思います。特定の教団・教派の教えを学ぶのではなく、本当に聖書は何と言っているのか、当たり前を疑い、それを是としてくれる神学校です。これは先生方の根底に神様への信頼があるからこそできる教育だと思います。

また働きながら学んでいる先輩がいることも大きな励みです。課題量の多さに圧倒されても、それをこなしている先輩方を見て鼓舞されまじ、ちよつとした会話に学び続ける意欲をもらいます。

卒業間近の先輩に「ここにきてまた聖書の読み方が変わったよ」と言われた時は、まだ変わるのかという衝撃と同時に、もっと偉大な神様を知れるのだという期待もこみ上げてきました。学べることを感謝し、喜びながら、今後も神と人にお仕えていきたいと願います。

●一〇年超えてじっくり

専門科

原 こそも

専門科に在籍しております。入学は二〇〇九年。既に一〇年を超えての在学になります。その間、二年半程の休学期間を含めて、のんびりじっくり学ばせて頂いている者です。今期は、「靈性」という授業を受講中。脳みそをフル回転させ、がしがりレポートを書く、というタイプの科目ではありませんので、その意味ではゆつたりと構えられる部類ですが、自分と向き合い、神と向き合い、他者と向き合う、ある意味では全くぬるくない科目でもあります。ここまでの学びの中で心に残っている内容をひとつひとつと聞かれたら、ひとつと選ぶのは正直大変悩ましい所なのですが、「喪失」についての学びでしょうか。このコロナ禍によって世界中が「喪失」の中におかれた状態である事。そして、「喪失」が引き起こすものを知っている事で他者理解も生まれるように感じています。

今年、このコロナ禍のために全面的にZoomを利用してのオンラ

イン授業です。まるでどこでもドアの様に、画面を立ち上げると、そこは聖契神学校の教室。とても不思議な感覚だったのも今は昔…。すつかりどこでもドア生活に慣れ親しんでいます。とはいえ、聖契神学校の教室の空気が恋しい今日この頃です。

学生会報告

学生会書記

田中義輝

いつも学生会の働きを祈りに覚えてきてくださり、ありがとうございます。

世界全体が新型コロナウイルスとも称される新たな時代の到来で揺れ動く中、聖契神学校学生会はご多分にもれず、対面での行事中止を余儀なくされました(ただでさえ学生で集まる機会が少ないにも関わらず)。けれども、オンラインを駆使してイベントを行うことができたことは幸いです。

八月半ば、新入生対象で履修相談会を行いました。休憩時間の雑談もラウンジ談話も未体験の新入生にとって後期以降の履修選択は、地図をもたずに未開の地へ「えいや！」と無防備に飛び込んでいくようなもの。そこで、仕事や家庭の状況によって学期ごとに取れる科目数が変わる新入生から個々の相談を受けつつ、学生会メンバーが先輩学生として履修済みの授業の「おもしろさ」や「大変さ」などを共有する時間を持ちました。

いつもより二週間ほど短くなった夏休みが明けると、レポートや発表



Zoomでもド迫力 クリスマス会でシメオンに扮するM師

のため前期ラストスパートで奮闘しました。教会や仕事は徐々にハイブリッド化。ただ、学びはすべてオンラインでした。オンラインは移動が減ったことや参加の気軽さといった嬉しい面もありますが、喜べないことも。対面とは違うコミュニケーション、学びと生活の混在する環境、独特な“疲れ”が日に日に重なります。

どこかでリフレッシュをと思いつつ束の間の学期休みもどこへやら、キンモクセイの香りとともに過ぎ去って、後期が始まりました。Go To イート、Go To トラベル、便乗して後期から Go To 聖契キャンパス! とはいかず、オンライン授業が継続。そのため、オープンキャンパスも一〇月末にオンラインで開催されました。オンラインが功を奏したのか参加者は例年よりも多く、来年以降の入学を考えるまだ見ぬ新入生の存在に早くも期待が募ります。

今後の予定ですが、一二月一日に学生会主催オンラインクリスマス会を企画しています。昨年まではチャペルでの新入生による降誕劇(工夫の凝らされた出し物)が恒例でしたが、今年は踏襲できません。そこで、①毎年降誕劇を興奮と歓喜で満たすM先生による説教、②オンライ

ンゲーム大会の二本立てで企画しています。チャペルタイムに未参加、在学生との交わりもほぼ持っていない新入生が、聖契の雰囲気味わい、楽しめるようにと願いながら準備しています。新入生含め在学生にとつて、よい交わりの時となるようお祈りください。

今年度いっぱいオンラインのみでの授業が継続することとなりました。コロナ禍にあつても学生一人一人が支えられ学びを継続できるよう続けお祈りください。

ぶれない中心を強調し、中心以外に関しては寛容に、異なる立場からの見解にもリスペクトして傾聴しつつ学びを深めていく

基礎科：通論／結論／礼拝学／キリスト教教育etc…
専門科：組織神学／霊性の神学／牧会学etc…

アカデミックかつ実践的学び

オープンキャンパス 学生会による学校紹介

スクーールレポート

◇ 八月一八日(火)、本校で一九五七年から四六年間教鞭を執られた村瀬俊夫師が九一歳で召天。日本福音主義神学会設立呼びかけ人の一人で、新改訳聖書翻訳事業に携わり、JEA社会委員会で活躍されました。本校を愛し、常に励まし支えてくださいました。

◇ 八月二四日(月)午前一〇時と午後七時、後期履修届提出にあたり、新入生に在校生が履修科目のアドバイスをする履修懇談会が、学生会によりZoomで設けられ、新入生と在校生が参加。

◇ 九月一日(火)より、河野英樹兄がパート事務員として業務を開始。今年度は火・木・金曜日の午前一〇時〜午後三時(昼休み一時間)の勤務です。オンライン授業継続中のため在校生や教師の来校が少ないのが残念。

◇ 九月三日(木)、教育課程「ユースミニストリー」特別講師として、hib.a.の川口竜太郎代表が講義。また、九月一〇日(火)には、東京ライトハウスチャーチの八東選也牧師が講義。

◇ 九月一四日(月)、公益財団法人東京都私学財団主催の第一回重要・経営課題研修「学校教育と著作権法」がお茶の水で開催され、図書・広報スタッフの吉川直美師が出席。

◇ 九月一六日(水)、公益財団法人東京都私学財団主催の第二回重要・経営課題研修「コロナ休校で浮き彫りにされた日本の教育情報化課題」ICT活用でいかに学校のパフォーマンスを高めるか〜がお茶の水で開催され、IT担当スタッフの山崎ラッサム和彦師が出席。

◇ 九月二三日(水)と一〇月八日(水)、日本福音主義神学校協議会より、「新型コロナウイルスに伴う各神学校の対策と影響についてのアンケート」集計結果が届きました。あらためて、都心にある通学主体の本校がコロナ禍で置かれている厳しい環境を確認しました。

◇ 九月二五日(金)、第四回教師会(Zoom)に一二名の教職員が出席。後期、当面は全面オンライン授業を継続することを確認しました。宣教学と礼拝学の担当教師は、初めてのオンラインスタートとなります。

◇ 九月二九日(火)〜三〇日(水)、

日本福音同盟(JEA)宣教委員会主催の「JEA宣教フォーラム」がZOOMで開催され、吉川直美師がパネラーと分科会講師担当。聖契神学校はJEA協力会員で、関野校長が協力会員世話人を行っています。

二〇二〇年度前期をもって、基礎科の内田泰亮兄、専門科の大光慎太郎兄、永井恵理子姉が中途退学。佐藤(旧姓・鶴木)みぎわ姉が聴講終了、植野智恵姉が特別聴講終了。

一〇月九日(金)、オンラインオープンキャンパスのZOOMによるリハーサルを、講師の山口師と事務スタッフ五名で行いました。

一〇月一二日(月)後期より、土谷彰彦兄、江橋摩美姉が専門科に進級。瀧元高子姉が教育課程全科目履修開始。卒業生の松田真之介師が特別聴講開始。基礎科の稲葉滋兄、狩野光兄、實方秀太兄、広瀬蒼帆兄、専門科の中山史郎兄が復学。

一〇月一二日(月)と一一月一〇日(火)、一二月末で閉店するCLCお茶の水店より業務を引き継ぐいのちのことは社の担当者が来校し、打ち合わせ。CLCには長きにわたり本当にお

世話になりました。

一〇月二二日(木)、第四二回教師会(ZOOM)に一四名の教職員出席。開始直後の後期オンライン授業の様子を分かち合いました。

一〇月三十一日(土)午前一〇時半〜午後三時半、二〇二〇年度聖契神学校オンラインオープンキャンパスをZOOMで開催。午前の学校説明と懇談会には、スタッフと応援の在校生を含め、二〇名が参加。学生会によるパワポ使用の学校紹介も秀逸で、予想以上にうまくいきました。午後の山口希生師による特別講演会には、スタッフを含め七六名が参加。遠隔地からの出席もあり、オンライン方式のメリットを感じました。

一〇月七日(土)より、オンラインセミナー「『神の王国』を求めて」第二回〜七回を、毎週土曜日午後一時〜三時半の時間帯にZOOMオンラインで開催。講師は山口希生師で、五三名の参加により、一二月一二日(土)終了しました。音声と資料をご覧ください。

一一月一九日(木)、第四三回教師会(ZOOM)に一二名の

教職員が出席。後期終了までオンライン授業を継続すること、一月よりオンラインでチャペルタイムを復活することを決定。

一一月二二日(土)、オンライン授業に関する第二回アンケートを全在校生と教職員に送付し、二八日(土)に締め切って集計。七〇名より回答があり、オンライン授業にはおおむね好意的な評価ですが、長期化に伴う疲れが見られ、交わりを求める声が多数寄せられました。

一二月二日(水)、半年に一度の防火設備点検で、本館に残っていた古い消化器を処分。なんと本館竣工の一九六七年製で、骨董品廃棄は惜しいことでした。

一二月三日(木)、専門科在学中の幹祐希兄に、第二子女児が与えられ、恵麻(えま)ちゃんと命名されました。おめでとうございます。

一二月四日(金)理事会。二〇二一年度事業計画と予算を承認。また、二〇二二年度前期(四月〜九月)までのオンライン授業継続を決定。適宜登校日を設ける予定です。後期(一〇月〜三月)の授業形態は今のところ未定。

一二月四日(金)の理事会で、

井上誠師(基礎科「中間時代」、専門科「牧会カウニング」担当教師)の二〇二二年三月退職を承認。四月より、「中間時代」を山口希生師(同盟・中原キリスト教会牧師、東京基督教大学非常勤講師、「牧会カウニング」を河村從彦師(イムママエル聖宣神学院学監、聖宣神学院教会牧師)に担当していただくことを決定。教師交代に伴うカリキュラム変更は調整中です。

一二月七日(月)、組織神学Ⅲクラス特別講師として、中澤啓介師(大野キリスト教会宣教師)をZOOMでお招きし、講義。終了後も質疑応答が続きました。

一二月八日(火)、カンパリーンド長老キリスト教会日本中会より、聖契神学校を神学教育の指定神学校に加える決定通知が届き、大きな励ましとなりました。

一二月一〇日(木)、インターネット回線工事に先立ち、NTT担当者による現地調査。建物の構造上、WiFi電波の伝播状況が極端に悪い事実が判明し、プランを再検討中です。

一二月一日(金)午後九時〜一〇時、学生会クリスマス会をオンラインで開催。お馴染みのひとり芝居やZOOMのプレイ

クアートルームを活用したゲームなど、遜色ないクオリティで盛り上がりました。

◇ 二月一四日(月)、川島祥子氏(日本長老教会・西部柳沢キリスト教会主事、東京基督教大学非常勤講師)より、訳書ラリー・クラブ著『ひとを理解する―なぜ、ひとは、関係を熱望するのか』(ヨベル)五〇冊の贈呈を受け、来校する在校生や教職員が次々に受け取っています。川島氏は関野校長の神学校クラスメートです。

◇ 二月二〇日(日)〜二二日(火) 午後五時〜七時、大接近中の木星と土星の観望会を、寮生対象に関野校長が本館屋上で開催。三日間とも快晴に恵まれ久しぶりのリアルな交わりの機会となりました。

◇ 二月二一日(月)〜一月三日(日) が冬休みで、一月四日(月) より後期授業再開。カレンダーの関係で、最も冬休みが短いパターンです。

◇ 二月二七日(土) が入学願書締め切りで、三月五日(金) が入学試験(筆記)、六日(土) がZoomによる面接です。三月一三日(土) で後期授業終了、一五日(月) 卒業式となります。

春休みを経て、四月一日(木) が入学式、二日(金) より二〇二一年度前期授業開始です。

献金感謝報告

日頃からの献金とお祈りに心より感謝申し上げます。二〇二〇年八月一日から二〇二〇年十一月三〇日までに献金をささげてくださった方々のお名前を、感謝をもってご報告いたします。(順不同・敬称略)

教会・団体献金

たまプラーザキリスト教会、浦和福音自由教会、キリスト教たんぼぼ教会、横浜白山道教会、小竹向原キリスト教会、とねりキリスト教会、イエス・キリストもみの木教会、招待キリスト教会、大野キリスト教会、シオンの群教会、東林聖書キリスト教会、蓮沼キリスト教会、石神井バプテスタ教会、西堀キリスト福音教会、代々木キリスト教会、御徒町キリスト教会、瀬谷キリスト教会、大磯キリスト教会、国分寺バプテスタ教会、百合ヶ丘バプテスタ教会、玉川神の教会、清水ヶ丘教会、戸田キリスト教会、板橋教会、蕨福音自由教会

聖契教団

酒匂(鶴見茅ヶ崎)平塚(初石)寒川

個人献金

木村忠幸、小山田格、下村明矢、関野祐二、関野清美、大久保昌生、瀧元高子、河野英樹、小泉登志江、大滝佳、加々美要、脇坂勇、武田順児、渋谷昌史、由加、早川佳枝、土屋高子、武田治子、小池由利子、天野洋行、平田孝子、川島祥子、高橋ゆかり、石井祐司、後藤公子、加藤史津子、荒牧素子、小林成子、借子、杉本千穂、大山久子、林啓子、山本博愛、恭代、三浦利恵、中澤啓介

図書献金

聖契神学校学生会

ご案内

● 山口希生師オンライ

セミナー音声&資料販売のお知らせ

一〇月三二日〜二月二日、毎週土曜日全七回で行われた、オンラインセミナー「『神の王国』を求めて」(講師・山口希生師)の講義音声とスライド資料を、全七回分音声ファイル(MP3)と資料(PDF)合わせて一万二千元にて販売します。ホームページよりお申し込みください。

● 聖契神学校オンライ

セミナー「悲しみに寄り添うグリーフケア」

日時と内容
三月一三日・二〇日(土)

午後一時〜三時

※ 会場 Zoomによるオンライン

※ 対象 在校生、卒業生、一般

※ 講師 吉川直美

※ 受講料 一括 四千元

※ 申込締切 三月四日(金)

※ Zoomによるオンラインで

開催します。インターネット

に接続されたパソコン、タブ

レット、スマホがあれば参加

できます。

※ 参加ご希望の方は、別紙案内書

やホームページを参照くださ

※ い。お問い合わせは事務所まで

受講者のインターネット環境

や回線状況に起因する通信障

害(中断等)に関して、当校

では責任を負いかねますこと

をご理解の上、お申し込みく

ださい。

● 第六八回卒業式

日時 二〇二一年三月一五日(月)

午後六時半

※ 会場 聖契神学校チャペルと

※ 説教者 小坂田環暢師

※ (日本福音キリスト教会連合

主都福音キリスト教会牧師)

● 二〇二一年度入学式

日時 二〇二一年四月一日(木)

午後六時半

※ 会場 聖契神学校チャペルと

※ オンライン配信

※ 説教者 関野祐二校長

※卒業式、入学式とも、感染防止のため、来校者人数を制限して開催します。詳細は追ってご連絡いたします。感染状況によっては変更の可能性もありますが、ご了承承ください。

※ 前期授業は二日（金）開始です。

二〇二一年度 学生募集要項

聖契神学校では、二〇二一年四月からの新年度新規入学者を募集しております。正規生・聴講生いずれも教会からの推薦が最も重視されますので、ふさわしい主の器がおられましたら、ぜひ諸教会より献身者を送り出してください。また、召しと学びへの意欲が与えられましたら、その思いを教会で共有していただき、推薦を受け、受験してください。

※二〇二一年度前期（四月～九月）はZoomオンラインで授業を行います。後期（一〇月～二〇二二年三月）の授業形態は今のところ未定です。

受験資格

- ◆ 新生をし、受洗後一年以上の忠実な教会生活・信仰生活を継続し、キリスト者としての良き訓練を受けた者
- ◆ 福音の働き人として召命を受けた者（正規生のみ）
- ◆ 所属教会の推薦を受けた者

- ◆ 大学卒およびそれと同等の学力を有すると認められる者
- ◆ 本校の使命と目的に同意する者

受験に必要な書類と提出方法

- ◆ 神学校事務所に入学願書、牧師推薦状用紙を請求し、以下の書類および受験料二万円の郵便振替払込票コピーと併せて、二〇二一年二月二十七日（土）までに神学校事務所へ送付してください。
- ◆ 入学願書（所定の用紙）
- ◆ 履歴書（市販のペン字横書き用紙、写真添付）
- ◆ 救いと召命の証し（四百字詰め三枚以内。パソコン可。聴講生は救いの証し）
- ◆ 推薦状（所定の用紙。所属教会の牧師・宣教師によるもの）
- ◆ 最終学校卒業証明書と成績証明書
- ◆ 健康診断書（胸部レントゲン検査のみで可）
- ◆ 聴講生から正規生への編入受験者は、「願書」「健康診断書」に加え、「救いと召命の証し」と「推薦状」をあらためて提出してください。

試験内容

- ◆ 筆記試験（正規生のみ）
 - ・ 聖書（旧新約聖書と教理）
 - ・ 小論文（キリスト教界のトピックや課題等）
 - ・ 英語（キリスト教関連文書の翻訳。（電子）辞書持込可）
- ◆ 書類審査と面接（正規生、聴講生共）

試験日時

- ◆ 筆記試験（正規生）
二〇二一年三月五日（金）
午後一時～三時
会場・聖契神学校
- ◆ 面接（正規生、聴講生共）
二〇二一年三月六日（土）
午後一時～
Zoomオンラインにて

※

面接は、原則として受験書類受付順に行います。あらかじめ予定時刻をお知らせし、Zoomの待機室でお待ちいただく予定です。Zoomの使い方やリンクなど、詳細は別途お知らせします。

その他

- ◆ 受験料・学費・諸経費等については別途お問い合わせください。入寮希望の方は、あらかじめお知らせください。
- ◆ 聴講は、前期・後期各々二科目、年間四科目まで受講可能で、二年間が上限です。聴講で取得した単位は、正規生編入後も認められます。
- ◆ 学校見学（マスク着用必須）を随時受け付けています。事務所にお問い合わせください。

神学校祈禱課題

- ◆ 在校生七一名のオンラインによる後期学びと健康、教職員一五

名の働きが支えられるように。卒業を控えた神学生の、残された学びと卒業後の働きや歩み。三月の入学試験に向け、諸教会より推薦を受け、状況が整えられて学びを始める正規生・聴講生、また聴講から正規生への編入者が豊かに与えられるように。四月二日（金）より始まる二〇二一年度前期のオンライン授業と諸活動が支えられるように。本校が新型コロナウイルス感染から守られ、運営、施設、靈性などあらゆる面で支えられて、献身者育成と神学研究の使命を忠実に果たせるように。

- ◆ 神学校の支援サポート体制が整い、卒業生、諸教会、団体や企業など多方面に拡大するように。国内外で主と教会に仕え、宣教に励む多くの卒業生、その働きと健康のため。

編集後記

● ナイトウォーク 一日五～六km 腹ぺこ◆ 火曜午前は珈琲片手に事務所雑談回り◆ Zoom授業動画アツプ視聴回数チェック◆ 宵空に木星土星大接近。次は二〇年後。△リかな▽
● 恵比寿往復ナイトウォーク、当方挫折◆ Zoom背景にもマスクにも個性あり◆ ブゥ！校内に響き渡るブザー音懐かしき◆ 右脳で描くアナログ画で忘れていた絵心復活（N）